

安全データシート

トナー

1. 製品及び会社情報

製品名 : トナー (TS18C, TS24C, TS2215ZAJP, TS2215AWJP, TS2215BWJP, TS2700ZAJP, TS2870AJP)
 会社名 : 村田機械株式会社
 住所 : 〒612-8686 京都市伏見区竹田向代町136
 担当部門 : 情報機器事業部 品質保証グループ
 電話番号 : 075-672-8279
 FAX番号 : 075-672-5046

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性/引火性ガス	分類対象外
	可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性/酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学物質	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類対象外
	健康に対する有害性	急性毒性 (経口)
急性毒性 (経皮)		分類できない
急性毒性 (吸入: 粉じん)		分類できない
皮膚腐食性/刺激性		分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		分類できない
呼吸器感作性		分類できない
皮膚感作性		分類できない
生殖細胞変異原性		分類できない
発がん性		分類できない
生殖毒性		分類できない
標的臓器/全身毒性 (単回暴露)	分類できない	
標的臓器/全身毒性 (反復暴露)	分類できない	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）

分類できない

水生環境有害性（慢性）

分類できない

ラベル要素

絵表示 なし

注意喚起語 なし

危険有害性情報 なし

取扱注意

- {予防策}
- ・容器から出し入れするときは、こぼさないようにして下さい。
 - ・取り扱い中は、必要に応じて防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
 - ・環境への放出を避けて下さい。
 - ・使用前に SDS をご参照下さい。
- {対応}
- ・吸入した場合は空気の新鮮な場所へ移動し、休息させて下さい。
 - ・皮膚に付着した場合は、多量の水と石鹸で洗って下さい。
 - ・眼に入った場合は、水で15分以上注意深く洗って下さい。
 - ・身体上の異常が生じた場合には、医師の診断 手当てを受けて下さい。
- {保管}
- ・火気のない換気の良い冷暗所に保管して下さい。
- {廃棄}
- ・廃掃法及び地方条令に従って産業廃棄物として適切に処分して下さい。

3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名 トナー

化 学 名	官報公示 整理番号	CAS番号	含有量 (重量%)
ポリエステル樹脂	登録あり	登録あり	> 70.0
カーボンブラック*	対象外	1333-86-4	< 12.0
酸化鉄*	1-357	1317-61-9	< 6.0
ポリプロピレン	6-10	9010-79-1	< 4.0
ワックス	対象外	登録あり	< 4.0
有機顔料	登録あり	登録あり	< 2.0
アモルファスシリカ*	1-548	登録あり	< 2.0

*印:「2. 危険有害性の要約」及び「15. 適用法令」参照。

TSCA登録の有無: 全て登録あり

REACH登録の有無: 登録済み若しくは予備登録済み。

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場合に身体を移し、保温し、安静にする。
必要であれば医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着部を清浄な水と石鹼で洗浄する。
必要であれば医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で少なくとも15分間、洗眼する。
必要であれば医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに清浄な水で、うがいさせる。
必要であれば医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂及び霧状水を使用する。
- 消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火作業は可能な限り風上から行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。
燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガスも含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業には必ず保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用し、粉塵を吸入しないようにする。
付近の着火源になるものを取り除く。
- 環境に対する注意事項 : 漏洩物が排水溝、河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法/機材 : 粉塵が舞うのを防止するため、可能ならまず湿らせる。
飛散しないように箒等で掃き集めるか、雑巾等で拭き取る。

7. 取扱及び保管上の注意

- 取扱 火気のある場所および電気火花の発生する場所では取り扱わない。適切な換気、排気装置のもと防塵マスク、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し作業する。空気移送、バグフィルター等の設備は、静電気を除去するための接地を行う。
- 注意事項 取り扱い後、手洗い、うがいをする。
- 保管
技術対策 : 火気厳禁
適切な保管条件 : 直射日光、高温多湿を避け、風通しのよい冷暗所にて保管する。
接触禁止物質 : 酸化性物質

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 粉塵を発生させるような取扱をする場合には、密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- 暴露限界値 : 未設定

許容濃度 :日本産業衛生学会(2014年版)第三種粉塵
2 mg/m³ (吸入性粉塵) 8 mg/m³ (総粉塵)
:ACGIH(2013年版)
3 mg/m³ (吸入性粉塵) 10 mg/m³ (総粉塵)

測定方法 JIS Z 8813に従って浮遊粉塵濃度を測定する。

保護具

呼吸器に保護具 防塵マスク
手の保護具 保護手袋
眼の保護具 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 長袖作業衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态: 黒色の粉末
臭い: わずかな特異臭
分子量: データなし
沸点: 非該当
引火点: データなし(可燃)
発火点: データなし(可燃)
爆発範囲: データなし
蒸気圧: データなし
揮発性: データなし
比重: c.a. 1.20
溶解度: 水に対し不溶
オクタノール/水分配係数: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性: 一般的な貯蔵・取扱において安定である。
反応可能性: 自己反応性なし。
危険有害性: 不完全燃焼に伴う一酸化炭素等の有害性ガス。

11. 有害性情報

急性毒性

経口: LD50(ラット) データなし
経皮: LD50(ラット) データなし
吸入: データなし

皮膚腐食性/刺激性: 物理的刺激のみ

眼に対する重篤な損傷刺激性: 物理的刺激のみ

発がん性: カーボンブラックは、IARCでグループ2B(ガン原性の疑いがある)に分類されている。

変異原性: Ames試験陰性(類似製品の試験結果より判断)

生殖毒性: データなし

催奇形性: データなし

代謝: データなし

12. 環境影響情報

環境中の挙動

生物毒性

魚毒性:データなし

甲殻類毒性:データなし

藻類毒性:データなし

分解性:データなし

生体蓄積性:データなし

環境基準

水質汚濁に係わる環境基準:データなし

土壌の汚染に係わる環境基準:データなし

大気の汚染に係わる環境基準:データなし

13. 廃棄上の注意

少量の場合 廃掃法及び地方条令に従って産業廃棄物として適切に処分する。

大量の場合 廃掃法及び地方条令に従って産業廃棄物として適切に処分する。

使用済容器 廃掃法及び地方条令に従って産業廃棄物として適切に処分する。

焼却する場合 焼却処分の際には、スクラバー等を具備する大気汚染防止法適合焼却装置で、処分する。

14. 輸送上の注意

国連分類: 分類なし

国連番号: 付与なし

海洋汚染物質: 情報なし

港則法: 情報なし

船舶安全法: 情報なし

航空法: 情報なし

輸送時の安全対策及び条件: 特別の注意事項なし。

15. 適用法令

(1) 労働基準法

- 労働大臣が指定する単体たる化学物質及び化合物並びに労働大臣が定める疾病の指定粉じんを飛散する場所における業務によるじん肺症又はじん肺法(昭和三十五年法律第三十号)に規定するじん肺と合併したじん肺法施行規則(昭和三十五年労働省令第六号)第一条各号に掲げる疾病(カーボンブラック、酸化鉄及びシリカ)

(2) 労働安全衛生法

- 労働安全衛生法施行令 第二十三条の3(粉じん作業)第十八条の二(名称等を通知すべき危険物及び有害物:カーボンブラック、アモルファスシリカ(シリカ)、酸化鉄)

(3) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)

新規化学物質及び少量新規化学物質の使用なし

(4) PRTR法 第一種及び第二種指定化学物質の使用なし

(5) その他法令 特になし

16. その他

参考文献他

新しい知見の発表や従来説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出展等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取扱を対象としたもので、特殊なお取扱の場合には、この点にご配慮をお願いします。

記載内容は当社の善意の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保障するものではありません。ご使用者各位の責任において安全な使用条件を設定下さいますようお願いいたします。また、特別な取扱をする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。当製品SDSは、日本国内法規を基準に作成したものです。